



平威の
京阪大鳥瞰図
(浪華京近江)

アナウンサー

渡辺 真理氏

アナウンサー 渡辺 真理

わたなべ まり

●1967年6月7日生まれ。神奈川県横浜市出身。国際基督教大学卒業。1990年TBSに入社。1998年に同社を退社後、テレビ朝日「ニュースステーション」に番組終了まで出演。現在はBSプレミアム「BS歴史館」など、テレビ、雑誌を中心に活躍中。

「地域に役立つ事業」を根幹に

渡辺 京阪電車は、日本の資本主義の父といわれる渋沢一氏を創業時の創立委員長として1906(明治39)年に創立されました。そうした成り立ちを受けた、京阪電車のCSRについてお聞かせください。

加藤 渋沢先生はたくさんの会社をつくられていますが、その一つの基準にしていたのが、これからの日本社会にどういった会社が必要か、つまり国民のためになる会社でした。私たちのような鉄道であるとか、病院、学校など、常に判断の軸は公共性に置かれていました。

その意味でもCSRは、公共性の高い会社をしっかりと経営することによって尽きると思います。京阪グループは地域の皆さまのお役に立てる事業を選択し、沿線のまちづくりなど地域の

皆さまと共に発展してきました。いままでも、これからも、そういう考え方を事業の根幹として進めていきたいと思っています。

渡辺 渋沢氏といえば「道徳経済合一説」で有名ですが、経済というものは公共性を持たなくてはならないと説いています。京阪電車はまさにその精神をそのまま受け継いでいらっしゃるのですね。100年経ったいま、「ひらかたパーク」とか「アートエリアB1」、「おけいはん」キャンペーンなど、渋沢氏をご覧になったら、なるほどいいアイデアだなとおっしゃるかもしれませんね。実は、十数年一緒に働いているスタッフが京都出身で、京阪電車に乗る際には、自分たち自身も「おけいはん」になった感覚で親しんでいると聞きました。

加藤 おかげさまで当社の沿線の方々は電車を自分のものと思っただいています。また、自分の沿線に非常に誇りを持っていただいているから、よその方から京阪を悪く言われるとお客